

「質の高い英語教育」の実現に向けてーカナダの英語教育から学ぶー

人間科学部 コミュニケーション学科 3年 関澤奈津美
カナダ・ランガラカレッジ (Langara College)

1. このテーマを選んだ理由

今回の留学では、『「質の高い英語教育」の実現に向けてーカナダの英語教育から学ぶー』というテーマを設定しました。SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」を軸に、カナダの英語教育について調査を行いました。

このテーマにした理由は、カナダは移民国家であり、特にバンクーバーには中国・韓国・フィリピンなど、英語を母語としない多様な背景を持つ人々が多く暮らしているためです。さらにカナダでは英語とフランス語が公用語として定められ、二言語教育が広く推進されています。そのため、本留学を通じて、第二言語として英語を学んでいる人々がどのような英語教育を受けてきたのか、さらにカナダにおける二言語教育の取り組みについて理解を深め、日本の英語教育との違いを明確にしたいと考えたからです。将来的には、私自身が茨城県で中学校の英語教員となった時に、他国の教育法を取り入れ、茨城県、さらには日本の英語教育の質の向上に貢献し、英語を使える・話せる人材の育成に寄与したいと考えています。

2. 調査計画

到着～1ヶ月	LEAPプログラムの授業と日本の英語の授業との相違点をまとめる。
～2ヶ月	カナダで行われている留学生または英語を母語としない生徒向けの英語のクラス「English Language Learner (ELL)」について調査する。
～3ヶ月	クラスメイトに母国での英語教育について Google Form を用いてアンケート調査を行う。
～4ヶ月	日本の英語教育に取り入れられそうな指導法・授業展開を検討する。

3. 調査・活動報告

《到着～1ヶ月》

1ヶ月目は、Langara Collegeの附属英語プログラムである Langara English for Academic Purposes (LEAP) の授業と教育実習での授業観察や私がこれまで日本で受けてきた中学校における英語の授業との相違点について比較しました。

LEAP プログラムでは、授業で使用される言語が英語のみであるため、英語に触れる機

会が多く、ペアワークやグループワークでの活動も活発に行われていました。また、対義語や類義語も扱われるなど、日本の英語の授業に比べてプラス α の学習活動が多く取り入れられている点が特徴的です。そのため、日本の英語の授業においても、より実践的で多様な活動を積極的に導入していく必要があると感じています。一方で、両者に共通する点もありました。段階的な学習を通じて、基礎をしっかりと築くことは、英語教育に限らず、すべての教育において重要な点であると改めて認識しました。

《～2 ヶ月》

2 ヶ月目は、カナダにおける非英語母語話者の児童・生徒や学生への英語教育について、インターネット調査およびインタビュー調査を行いました。

まず、インターネット調査で分かったことを紹介します。ENJOY CANADA (2023) によると、カナダの公立高校には留学生向けの語学研修クラスが設けられており、現地の英語ネイティブの生徒たちと一緒に授業を受けられるレベルの英語力を身につけることが目的とされているということが分かりました。

次に、LEAP の担当教員と現地の小学校の英語教師の計 2 名に、カナダにおける非英語母語話者の児童生徒への英語教育についてインタビューを行いました。その中で、言語習得においては「英語を学ぶ目的を持つこと」や「授業の中で英語を使う機会を多く設けること」が非常に重要であることを実感しました。これらの調査から、日本の英語教育とカナダの英語教育の違いから学べることを応用し、将来、茨城県で英語教員として教鞭を取る際には、公用語だからこそのカナダの英語教育システムの良い点を積極的に取り入れていきたいと考えています。

《～3 ヶ月》

3 ヶ月目は、私が受講していた Langara College の LEAP プログラムのクラスメイト（日本、韓国、メキシコ、ベトナム出身の計 10 名）を対象に、母国における英語教育に関するアンケート調査を Google Form を用いて実施しました。国別の英語教育の現状、指導者と学習者の役割を整理し、その特徴や背景について考察しました。

アンケートの結果、英語学習を始めた理由として最も多かったのは、「学校の成績のため」と「保護者や先生に勧められたから」であり、いずれも 30% を占めていました。特に「学校の成績のため」と回答したのは全員が日本人学生でした。一方、韓国、ベトナム、メキシコの学生は「保護者や先生に勧められたから」や「将来の学びのため（高校・大学進学のため）」と回答しており、日本人の回答者のみが将来を見据えた学習というよりも、学校の成績や定期試験対策として英語を学んでいるという傾向があることが分かりました。学び方の観点から重要だと感じたのは、英語を学ぶ意義や目的を学習者自身が考える機会を設けることです。「英語を学ぶとはどういうことか」を学習者が考える時間を設けることで、学校の定期試験や高校・大学入試のためだけでなく、英語を使って海外の人と交流できるようになることや、英語で表現する過程で自分の考えをより深く整理する力が身につくことなど、英語学習の多様なメリットを認識できるようになる可能性があります。こうした英語学習のメリットを認識することは、英語学習へのモチベーション向上にも直結すると考えます。

《～4 ヶ月》

4 ヶ月目は、これまでの 3 ヶ月間行ってきた英語教育に関する調査を踏まえ、日本の英

語教育に取り入れられる可能性のある指導法や授業展開について検討しました。
まずこれまでの調査を通して、カナダの英語教育から学んだ点として、以下の特徴が挙げられます。

- ・授業内の使用言語を英語で統一すること
- ・他者との協働を重視した学習活動
- ・新出語彙を扱う際に、類義語・対義語を併せて提示する指導
- ・英語を学ぶ目的や理由を明確化すること

さらに、複数の国の英語教育を比較する中で今後の中等英語教育において望ましい方向性として、

- ・アウトプット活動を通じた発音の改善や語彙定着率の向上
- ・教師の役割として「学習者が主体的に学習活動へ参加できるように支援する姿勢」

これらの重要性も見えてきました。

以上の学びを踏まえ、これらの要素を取り入れた、日本人の中学2年生を対象とする授業展開を作成しました。

第2学年1組 外国語（英語）科学習指導案

授業者 関澤 奈津美

授業日 2025 年 12 月 25 日

場所 ○○中学校

単元名 Unit 4 What is important in a homestay? (New Horizon English Course 2 東京書籍)

本時の学習
展開

配時 (分)	学習内容・活動	形態	教師の働きかけと評価 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
1	1 挨拶【Greeting】 ・教師に応じて挨拶をする。 ・曜日と日付、天気の確認をする。	一斉	・英語を話しやすい雰囲気を作るために、明るく元気に挨拶を行う。 ・授業内は教師・生徒ともに基本的に英語を使用するよう促す。
5	2 Warm-up【Small Talk】 “What rules do you have at home?” ・テーマについて考え、ペアで話し合う。	ペア	・数名の生徒に意見を共有してもらう。 ・「…してはならない」（禁止）を表す適切な表現に疑問を持つように促す。
1	3 本時の目標【Today's Goal】 <div>Today's Goal 自分の家のハウスルールを相手に分かりやすく説明することができる。</div>	一斉	・本時の目標は日本語で提示し、本時の授業内容の理解を促す。
15	4 文法項目の提示・練習 (1) 文法項目・新出語句の提示【View】 ・教師の説明を聞く。 (2) 文法事項の練習【Practice】 ・教師が経験したホームステ先でのルールを英文にする。	一斉 個人 ペア	・have to と must のニュアンスの違いを示し、文法は「伝えるため・コミュニケーションのため」に学ぶことを理解させる。 ・新出語句を提示する際、対義語や類義語も併せて示す。 ・個人で考えた後、ペアで意見交換をさせる。
20	5 Communication Activity（ハウスルールの紹介） 【Speaking】 ・板書を用いて文法の意味を確認し、口頭で表現するための準備を行う。 ・奇数列（1,3,5 列目）の生徒は席移動せず、偶数列（2,4,6 列目）の生徒が1つ前の席へ移動しながら、ペアでハウスルールを英語で伝え合う活動を行う。 【Listening】 ・相手の話を聞きながら、相手のハウスルールをメモし、その内容を全体に向けて発表する。	個人 ペア 一斉	・ハウスルールを3つほど思い浮かべさせ、自分の生活と英語を関連づけて関連づけ考えさせる（リハーサル）。 ・事前に英文は書かせず、文法の意味を思い出しながら英語を口頭で表現させる。 ・家庭によって価値観やルールが異なることに気づかせる。 <div>○評価の内容 生徒自身の家のハウスルールについて話し合っている 【行動観察】</div>
7	6 まとめ ・本時の学習内容について、日本語で1から2文程度で振り返りを書く。	個人	・本時の学びを言語化し、自分の考えをアウトプットさせる。 ・本時の授業内容の目的を再確認させる。
1	7 挨拶【Greeting】 ・教師に挨拶をする。	一斉	・明るく元気に挨拶をする。

4. 終わりに

今回、SDGs の目標4「質の高い教育をみんなに」を軸に、『質の高い英語教育』の実現に向けて「カナダの英語教育から学ぶ」というテーマで調査を行ったことで、カナダの英語教育だけではなく、クラスメイトが育ってきた多様な国々の英語教育についても認識し、理解を深める貴重な機会となりました。

今後の課題として、留学4ヶ月目に作成した授業展開を模擬授業として実践し、うまくいった点や改善点を明確にしたうえで、日本の英語教育に適した形へ応用していくことを挙げます。将来は、茨城県の中学校の英語教員として教壇に立ち、今回の留学で得た知見や教育手法を実際の教育現場に取り入れ、生徒一人一人に質の高い英語教育を提供できる教員として、茨城県、さらには日本の英語教育に貢献できる人材になりたいと考えています。

参考・引用文献

ENJOY CANADA (2023) . 「【カナダ高校留学】ELL とは？高校留学はオススメ？カナダの高校にある留学生向け英語クラスや高校留学のメリット・デメリットについて徹底解説！」(2025 年 10 月 24 日 取得)
<https://jp.enjoycanada.co/canada-high-school-ell/>